



## ハートリンクに感謝

千葉県在住 井上 領  
(小児がん経験者)

現在、32歳、大学で化学を学んだ後、建築デザインの専門学校へ入りなおし、今では建築畑で働いている。健康状態は良好だ。と言っても実を言うと最近太り始め、それが気になっている。仕事の合間を見つけて好きなテニスを再開したが、週に1回が限度である。年齢的にも仕事が最優先となるのは仕方がないと、せめて夜食だけはとらないよう気をつけているものの、明らかな成果はまだ出ていない。

いわゆる小児がん経験者だが、2歳のときの発病で、正直なところ闘病生活がどのようなものであったか殆ど覚えておらず、母が口うるさく晩期合併症について話しても、実感として無関係のような気さえするというのが本音だ。

数年前、社会人として将来を考えるようになったとき、生命保険加入を思い立った。しかし小児がん経験者というレッテルが障害となり、保険対象になる疾患に限られ、保険料も上乘せされると聞き、保険加入しても実際には役立たないことが分かった。そんな時、知ったのが「ハートリンク共済」だった。小児がん経験者のために立ち上げられた共済だという。助かった。大手保険会社のように高額な保証はないものの、晩期合併症リスクがある我々には大きな安心材料となる。

そろそろ自分の家族をと考える年齢になり将来の設計図を描こうと思うのだが、その基本となる材料が揃わなければ、図面は描けない。小児がん経験者のいわゆるメタボ突入年齢は一般より若いという。太り始めたのもそのせいかもしれない。もちろん健康に対する自己管理を怠ってはならないが、それでも何か発病した場合のことを考えると、「ハートリンク共済」加入は将来設計図には重要な材料となる。

研究努力のおかげで小児がん治癒率は急激に上昇し、これから先は小児がん経験者の社会人が増加する見通しだそうだが、それは言い換えれば社会をリードし、よりよい社会を作り上げていく層には小児がん経験者が数多く存在しているということにもなる。そのことを考えれば、ハートリンク共済の存在が、単なる小児がん経験者の救済制度というだけでなく、社会にとっても重要な制度といえるのではないだろうか。「ハートリンク共済」に感謝。

### ハートリンク理事構成

理事長	浅見 恵子 (新潟県立がんセンター病院)	理事	竹内 菊博 (たけうち小児クリニック)
専務理事	廣瀬 公雄	理事	原 順一 (大阪市立総合医療センター)
理事	石田也寸志 (聖路加国際病院小児科)	理事	原 正 (有限会社ケンユウ)
理事	井上富美子 (千葉県菜の花会代表)	理事	檜山 英三 (広島大学附属病院小児科)
理事	稲田 浩子 (久留米大学病院小児科)	理事	細谷 亮太 (聖路加国際病院小児科)
理事	岩井 艶子 (国立病院機構香川小児病院)	理事	堀部 敬三 (国立病院機構名古屋医療センター)
理事	岡村 純 (国立病院機構九州がんセンター)	理事	麦島 秀夫 (日本大学附属病院小児科)
理事	沖本 由理 (千葉県立こども病院)	理事	矢部 普正 (東海大学医学部小児科)
理事	川崎 琢也 (医療法人かわさきこどもクリニック)	理事	若林 昌哉 (若林内科クリニック)
理事	関東 和成 (こどもクリニックかんと)	監事	廣田 幹人 (新潟総合警備保障株式会社)
理事	菊田 敦 (福島県立医科大学病院小児科)	事務局	林 三枝 (がんの子どもを守る会新潟支部)
理事	笹崎 義博 (笹崎こどもクリニック)		